

産婦人科専攻医研修カリキュラム

【一般目標：GIO】

産婦人科専門医として必要な臨床能力を修得するとともに、安全な医療を遂行するために、安全管理の方策を身につける。

【行動目標：SBO】

1. 専門医として必要な産婦人科的診断能力・治療方法について修得する。
2. 専門医の資格を取得するための要件を満たす。
3. 「患者のための医療」を行う姿勢を身につける。
4. 産科・婦人科救急の初期対応を習熟する。
5. 患者および患者家族との対応能力を習熟する。

【方略：LS】

項目	対応する SBO
外来、入院患者を主治医として担当し、検査、処置、診断、治療を行う	1. 2. 3. 5.
執刀医、助手として様々な手術を担当する。	1. 2.
産婦人科として、夜間・休日当直を担当する。	1. 3. 4.
異常妊娠・分娩・産褥症例の診断、治療を担当する。	1. 4.
症例検討会で、発表・討議する。	1. 4. 5.
学会に参加し研究発表する。学会誌などに論文発表する。	1. 2.

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	外来初診	手術	妊婦健診	手術
午後	外来検査	手術	外来再診	手術	産褥健診
夕刻	①	②		③	④

① 第 1, 3, 5 病理診断科カンサーボード、第 2, 4 NICU カンファレンス

病棟カンファレンス、手術症例検討会

② 放射線科カンサーボード

③ 第 1, 3 午前 7 時 45 分～抄読会 ④ 薬物療法委員会カンサーボード

【評価：Evaluation】

項目	評価者	時期	評価法
経験した疾患名及び症例数	自己・指導医	3ヶ月毎	自己記録
経験した手術名及び症例数	自己・指導医	3ヶ月毎	自己記録
カンファレンスでの提示	自己・指導医	毎週	口頭
学会発表、論文発表	指導医	毎年	自己記録

【日本産科婦人科学会の必要症例件数】研修カリキュラム 2017 より

1) 経験すべき症例数

- (1) 分娩症例 (a)経膈分娩立ち会い 100 例以上
(b)帝王切開術 執刀医として 30 例以上 助手として 20 例以上
(50 例中に前置胎盤、常位胎盤早期剥離を 5 例以上含む)
- (2) 子宮内容除去術 執刀医として 10 例以上
- (3) 膈式手術 執刀医として 10 例以上
- (4) 子宮付属器手術（開腹、腹腔鏡下を含め執刀医として）10 例以上
- (5) 単純子宮全摘術 執刀医として 10 例以上（開腹 5 例以上含む）
- (6) 悪性腫瘍手術（浸潤癌 執刀医あるいは助手として）5 例以上
- (7) 腹腔鏡下手術（執刀医あるいは助手として）15 例以上
- (8) 不妊症チーム一員として原因検索（基礎体温、内分泌検査、HSG、子宮鏡）
治療（排卵誘発剤、手術など）を行う 5 例以上
- (9) 生殖補助医療における採卵または胚移植に術者助手としてかかわるか、見学する
5 例以上
- (10) 思春期、更年期以降女性の愁訴に対して診断、治療を行う 5 例以上
- (11) 経口避妊薬や低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬の初回処方時に有害事象
などを説明する 5 例以上

2) 症例記録および症例レポート

- (1) 症例記録（周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性のヘルスケア）合わせて 10 症例
- (2) 症例レポート 1. 周産期 2. 婦人科腫瘍 3. 生殖・内分泌 4. 女性のヘルスケア
から 各 1 症例ずつ

3) 学術活動

- (1) 学術集会、研修会参加 ①90点以上の学会、研修会 ②機構単位 50 単位
(2) 学会発表 筆頭演者として 1 回以上発表
(3) 論文発表 筆頭著者として 1 編以上発表

【具体的達成目標】

1、産科分娩・手術

・ 正常分娩	400 例
・ 吸引分娩	50 例
・ 鉗子分娩・骨盤位経膈分娩	5 例
・ 帝王切開術	100 例
・ 子宮頸管縫縮術	5 例
・ 人工妊娠中絶・流産手術	50 例
・ 子宮外妊娠手術	30 例

2、婦人科手術

・ 単純子宮全摘術	60 例
・ 悪性腫瘍手術	10 例
・ 子宮脱手術	20 例
・ 腹腔鏡下手術	30 例
・ 付属器腫瘍核出・摘出術	50 例
・ 子宮筋腫核出術	30 例
・ 外陰会陰部手術	15 例
・ 子宮頸管円錐切除術	15 例

専攻医は研修管理システムによって到達度・総括評価を受ける。